

電気設備 照明

停電時に点灯しない照明

問題

省エネをするため、照明器具の蛍光管を外すことがあるが、自家発電回路の照明器具まで外すと停電時に支障が出る。
(点灯しなくなる)



対応

蛍光灯の間引く位置を自家発電回路につながっていない照明に変更する。

その結果、停電時においても、発電機の稼働により当初想定していた必要な明るさが確保できる。

電気設備 照明

蛍光灯の規格

問題

従来型照明器具(FL40W)に、2種類(FL40W、Hf32W)の蛍光管が使用されている場合がある。(改修を経て、2種類の器具となっている場合がある。)



対応

器具に合わせたランプにしないと器具が加熱し、火災等のおそれがある。



口金は同じだが、Hf管はFL管に比べ細くなっています..

電気設備 電力引き込柱

腐食(強度不足、事故防止)

問題

単に支柱の強度不足による倒壊等に留まらず、ケーブルが露出することで、地絡停電、感電等の事故が発生するおそれがある。

対応

早急な更新と応急対策が必要。



電気設備 非常用照明

停電時に点灯しない照明

問 題

電池内蔵型の非常用照明は電池が切れると、非常時(停電時)に点灯しない。

※非常用照明には以下の2種類ある。

- ・電池内蔵型: 非常時に内蔵の蓄電池により点灯
- ・電池別置型: 非常時に器具外の非常用電源により点灯

対 応

電池内蔵型の蓄電池は通電時充電され、非常時放電されるが、通常4年～6年の寿命であり、充電しなくなってしまう。その際は純正品で交換が必要になる。

非常時に点灯するように定期的に点検を行う。

電気設備 電気室

電気室に物品が置かれている

問題

電気室に物品(可燃物等)を置くと火災になるおそれがある。



対応

通常、電気室は防火区画されており、内部の可燃物は好ましくない。

消防の是正事項となる可能性もある。

物品の移動等の対応を行う。